

| | |
|--|---------|
| 裾野麗峰山の会・山行報告書 | 文・写真 後藤 |
| 山行番. NO. 2014-1 | |
| 日時 2023年03月29日(水) 無風・快晴・高温 | |
| 山域 飛越国境・金剛堂山(1638m)・中金剛堂山(1650m) | |
| コース 3/28(火) 長泉5:30-旧利賀(とが)スキー場12:30(テン泊) 3/29(水) 起床4:00-「ふくりゅう橋」登山口発5:30-金剛堂山8:36-中金剛堂山8:52 ~金剛堂山9:13~24-「ふくりゅう橋」11:46-移動13:00-九頭竜湖「道の 駅」近くの駐車場16:30(テン泊) | |
| 標高差 上・下り 「ふくりゅう橋」約760m~中金剛堂山1650m=約890m+50m=約940m | |
| データ 長泉町~利賀スキー場=約474km、沼津IC~砺波IC料金=10010-、往復=1133km | |
| 難易度 非常に困難 困難 やや困難 レ普通 やや易しい 易しい | |
| 素晴らしい残雪の山 | |
| 参加者 後藤、加藤、合谷=3名 | |

毎年、この時期、初見の残雪山を目指す。昨年は、神奈山・鍋倉山だった。金剛堂山は、昨年秋計画されたが、悪天候で中止になった。

3月末から4月頭にかけて好天が訪れた。当初の計画は、金剛堂山と野谷荘司山だった。が、調べたら野谷荘司は、昔、私が通過したことがあるので、野伏ヶ岳に変更した。



朝日が明るい尾根

28日、長駆474km走り、旧利賀（とが）スキー場着。駐車場で宿泊準備をしていると、山から何人か降りて来た。女性が3名で子供が1名。聞けば「石川労山・チャンムラ山の会」の喜多紀代己さん一行だった。

子供さんは自閉症というが、全員登頂を果たしたという。金剛堂山隣の中金剛堂山は最高峰、短時間で往復できるから是非、行くように勧められた。



夕食

マンサク

夜は満天の星。標高が高いので寒かった。朝は4:00起床。5:30発。「ふくりゅう橋」が登山口だが道標一つなかった。雪はカチカチでアイゼンを履く。Kはチェーン、G Yは6本、私は12本だった。結果的に12本が正解だったが、今後、厳しい雪壁がなければ、前歯なしの10本がイイと思った。

次第に標高を上げる。雪が硬いうちに稼ぎたい。尾根に出ると左から陽光が注ぐ。梢の向こうに高い所が見えるが、山頂は更に上のようだ。「マンサク」が咲いていた。

標高点1346mピーク手前の台地に黄色いテントがあった。声を掛けたが誰も居なかった。駐車場にあった車の東京の方かも知れない。

後に中金剛堂山で会った「東京・ともしび山岳会」のパーティーの男女で、男性は、何と83歳の「大沢康雄さん」だった。昨日、東京から来てテン場まで上ったという。しかも、今日下山したら、即帰京するという。

恐ろしや、83歳でテン泊とは、頭が下がる思いでした。HPの「山の達人・偉人」に



大沢さん

登録をお願いした。

ブナの雪稜に行く。所々にスキ一の跡があった。確かに、山岳スキ一の案内はあるが、相当雪がないと狭い尾根で滑降は難しそうだ。

丸い山頂らしき所に来た。小屋の屋根のように見えたのは、山頂の大きな祠だった。振り返れば、360度の大展望。風はなく暖かい。

白山は南西方向、次に上ってみたい白木峰は北、2021年に上った、能郷白山は遙か南、20年に上った、大日ヶ岳も南だった。

山頂は誰も居なかった。ただ、4名が中金剛に向かっていた。「レイホ〜」とエールを



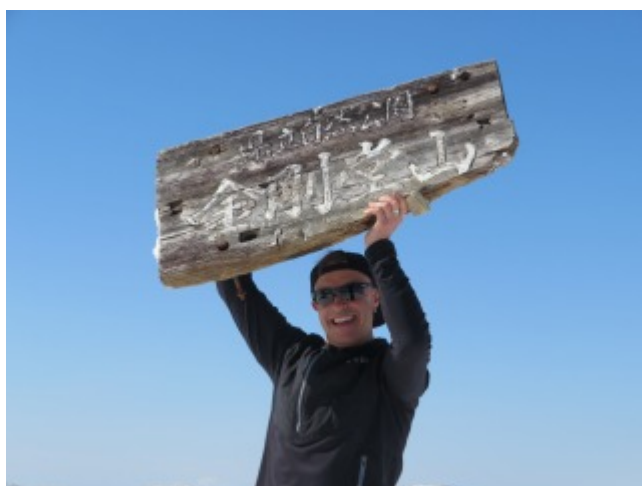
送るとストックを振って返して来た。

時間が早かったので、我々もお勧めの中金剛に向かった。だだっ広い雪原が広がる気持ちが良い場所。上り切れば中金剛堂山。4名の2名は、大沢パーティー。2名は金沢の英語教師のオーストリア人と息子だった。しばし、山頂で歓談。

踵を返し本峰に戻る。英語教師がドローン飛ばす。明るい方だった。ただ、息子は山でゲーム。これってあり??



英語教師



高い所が金剛堂山

英語教師は、山頂の看板を持ち上げてパフォーマンス。我々は、昼食がまだなので、空腹を満たした。勿論、あれ以来、「ビアはなし」お陰で荷物が軽くて有難い。

結局、この時間の山頂は7名だった。皆さん下山したので、我々も腰を上げた。チェーン・アイゼンのKは、雪が腐らないうちに下りたいという。

順調に下ったようだが、最後の三角点・998mの下りは、踏み跡が多くて、ルートがハッキリしなかった。しかも、北斜面で雪が硬い。

結構厳しく、一旦外したアイゼンをまた履いた。これで安心。しかし、Kはスイスイ下る。GYは6本で苦労している。その反省で、翌日12本にした。

下ればお昼。駐車場でKが長泉町「満貫風のうどん炒め」を作ってくれた。これが空腹にサイコーだった。一緒に流し込んだ、ビアは勿論、更にサイコー!!!



素晴らしい山々（後ろが中金剛堂山）・英語教師撮影



下山

トラブル・1

しかし、その後が、今回の山旅の苦難だった・・・?? 昼食を終え、Kが運転し、次の山の検索をGYとしていた。その間、約10分。検索を終え、顔を上げたら窓外の風景が何か違う。

往路に戻るには、トンネルを潜るはず。Kはトンネルを潜ったかハッキリしない。道は峠道になるし、小さなダムも見えた。オカシイ。パニックになった。対向車に聞いたら、戻れば、砺波IC手前の南砺SICに出ると言う。

なら戻ろうとUターンしたら、往路でトンネルを潜り右折した交差点に出た。結論は、この交差点を左折しないで、真っすぐ行ってしまったのだ。この件で、一番迷惑をこうむったのはGYだった。二人の口論は聞くに堪えなかったはずだ。(笑い)

トラブル・2

無事、高速に乗り南下し、野伏ヶ岳に向かう。しかし、野伏ヶ岳は、一本上り・下りで縦走的面白さがない。なら、やっぱり当初計画だった、野谷荘司山～三方岩岳が良いで計画変更。変更山のアプローチは、白山郷ICで降りる。

ところが、私が「白山郷IC」と野伏ヶ岳のアプローチの「白鳥IC」を間違えて「白山郷IC」をパスしてしまった。雪山がなくなり、おかしいと思ったが、名称が似ているとはいえ、最悪のチョンボだった。

時間はドンドン過ぎていく。16時になった。早くテン場を探さなければならない。野伏の白鳥ICで降りた。ところが、このICが、また分かり難かった。九頭竜湖方面の道標がなく、迷って本道に入ってしまう、郡上八幡ICで下りUターンした。

兎も角、白鳥ICに戻り、九頭竜湖「道の駅」に漸く辿り着いた。日没寸前。疲れ切った。道の駅にテン場はなかったが、近くの企業の駐車場でテン泊。トイレは、温水・ウォシュレットで有難かった。

疲れているはずだが、殊勝なKがテキパキと夕食作ってくれた。有り難い。こんな時、男は何の役にも立たない。落ち着いて、イッパイやれば、元気が戻り笑顔がはじける。夜は昨夜より南下、標高も低いので温かだった。

トラブル・3

3時起床。朝食を済ませ、石徹白(いとしろ)川を進む。石徹白は、1976年、白山縦走時訪れた。記録は、長良川鉄道で美濃白鳥駅に着き、バスで石徹白・上在所に向かい、ジープをチャーターし、銚子ヶ峰登山口に着いたとあった。古い話だ。

川沿いを30分進むと、先の県境の峠が連休まで除雪がなく通行止め看板。その情報は、確認していなかった。正しい道は、前述の白鳥リゾート方面からだった。

結局、即断し最も近い「荒島岳」に向かった。荒島岳は、1992年5月2日、上っているが雪が多かった記憶はない。記録は、山頂に無線反射板が2基とコンクリの小屋があったとあるが、今回はなかった。何処へいったのだろうか?? しかし、結果的に、トラブルも多かったが、「百名山・荒島岳」でGYには、喜ばれ良かった。

まとめ・・・拙車はカーナビがない。加齢と共に必要を感じた。